



新定管業稅則定稿

雜稅改正草案制

3174



114
A1393



上申案

各國稅ヲ賦課スルノ法主トシテ公明正實ヲ
 論シ概テ其法同途ニ出ツ蓋シ一稅ヲ發サント
 欲スルモ政府先ツ之ヲ議院ニ諮問シ衆議當ヲ
 得テ南メテ之ヲ民間ニ施ス然ルニ猶下情不達
 ノ患ナキ能ハス鄭重ノ件タル以テ知ルヘキ也
 故ニ稅ヲ賦課スルノ際之ヲ關タル者豫メ人民
 家室ハ多寡ヲ推考シ各業ニ從ヒ特ニ其用ト無
 用ヲ分別シ而シテ其差等ナカルヘカラス今竊ニ
 我國現行ノ稅法ヲ觀ルニ釀酒絞油諸印紙及ヒ

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

僕婢車馬游船鳥獸獵等ノ徵稅アリト雖モ未タ
商稅 至テ之ヲ收セサルモノ其十カ八九ニ居
ルハヤ百般整革ノ秋ニ方リ宜ク一定ノ稅則ナ
カルヘカラス然リ而シテ一朝之ヲ悉改セニト要
スルモ田疇固深未開蠹患ノ下民等租稅ハ素ト
國家其身ノ保護タルヲ會セサルヨリ翅ニ紛紜
ノ苦情ヲ声ラスノミナラス大ニ國政ノ通歩ヲ
障テ藥草變シテ荼毒トナルモノ所謂是ナリ此
ニ由テ今各業中民間尤無用ニ屬スル者或ハ風
俗ヲ奢美滯懦ニ導ク者一二ヲ摘擷シ之ヲ商稅

第初ノ着手ト為シ逐次漸ク以テ他商業ニ及ホ
シ結局一定ノ稅法確立アラニテ庶幾ス各規
則ノ如キハ概畧每冊ニ記載シ今合セテ之ヲ進
呈ス宜ク取舍折衷有テ只管採用アラニテ之ヲ
フ上申ス

大藏卿大隈重信

太政大臣三條實美殿

布告案

今般詮議ノ上更ニ諸營業免許規則并稅額相定
ノ來明治八年一月一日ヨリ施行候付テハ從來
營業ノ者及今後開業ノ者共總テ別冊ノ通相心
得營業可致候條此旨布達候事

明治七年

新定諸營業免許規則并稅則

第一條 諸營業免許願順序

第一章

凡ノ下條ニ掲載スル処ノ商業ヲ營ム者ハ表明
治八年一月一日後ヨリ本文ノ規則ニ從テ免許
ヲ受ルニ非レハ總テ營業スルヲ禁止ス就テハ
從來各業管續ノ者ハ本年十二月ヲ限リ又來明
治八年一月一日以後新ニ開業ノ者ハ其前月中
各該區戸長ノ許ニ至リ第一二三号各式ニ倣
テ俾制シタル願書ヲ進達シ指區長ノ手ヲ經テ

各其管轄府縣廳又ハ支廳ニ願ヒ出ツヘシ且ツ
其際手数料トシテ二十五錢ヲ區長又ハ戶長ノ
手ニ納ムヘシ但シ遊船宿營業ノ者ニ限り船一
艘ニ於テ二十五錢ヲ納ムヘシ

第二章

結社ヲ以テ開業スル者ハ其社長ヨリ前記ノ順
序ノ經テ願出ツヘシ又一已及ヒ結社ヲ論セス
一小区内ニ二店以上ヲ開業スル者ハ各殊別ニ
出願シテ免許ヲ受ケ總テ免許狀受領ノ上ハ稅
金ヲ區長ノ許ニ納ムヘシ且ツ願達書ハ總テ二

枚宛進達スヘシ

第三章

各營業入住處ヲ他ニ移轉スルキハ第四号書式
ニ依リ其事由ヲ該區戶長ノ許ニ達シ右届書ニ
戶長ノ與書証印ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ戶長ヘ進
達スヘシ但シ同小区ナレハ只該區ノ戶長ヘ
進達シ置クヘシ
又各營業株ヲ他人ニ賣却スルカ或ハ傳與スル
時後呈タル者先主ノ屋號通稱ニ異ナル者ハ第
五号書式ニ依リ戶長ノ手ヲ經テ區長ノ許ニ達

ハヘシ但シ免許状ハ其終所有シ期限ニ至テ書
換ヲ請フマシ

第四章

各營業人所有ノ免許状ヲ燒失又ハ紛失ニ及
クハ速ニ第六号書式ニ倣ヒ詳ニ其事由ヲ記シ
テ戸長ノ許ニ達シ區長ノ手ヲ經テ更ニ免許状
ヲ願ヒ受クヘシ但シ其際手数料トシテ二十五
錢ヲ區長及ヒ戸長ノ手ニ納ムヘシ

第二條 免許税金手数料及願違諸取扱并區

戸長心得

第一章

府縣各區ノ戸長ハ各願入ヨリ進達スル処ノ願
書本式ニ適合スルヤ否ヲ点檢シ且願入ニ對シ

（Red ink annotations in vertical columns, likely corrections or supplementary notes related to the regulations.)

一説キ聞セ而ノ本人其
ヲ誓フ所ハ猶本人ノ
向業ノ景状ヲ検査ノ上
許ニ回達スヘシ但シ
手数料ヲ受收スルヲ

第二章

ハヘシ但シ免許状ハ其終所有シ期限ニ至テ書
換ヲ請フマシ

第四章

各營業入所有ノ免許状ヲ燒失又ハ紛失ニ及
クハ速ニ第六号書式ニ倣ヒ詳ニ其事由ヲ記シ
テ戸長ノ許ニ達シ區長ノ手ヲ經テ更ニ免許状
ヲ願ヒ受クヘシ但シ其際手数料トシテ二十五
錢ヲ區長及ヒ戸長ノ手ニ納ムヘシ

第二條 免許税金手数料及願違諸取扱并區

戸長心得

第一章

府縣各區ノ戸長ハ各願人ヨリ進達スル処ノ願
書本式ニ適合スルヤ否ヲ点檢シ且願人ニ對シ
營業規則ノ趣意ヲ叮嚀ニ説キ聞セ而シテ本人其
意ヲ會得シテ遵守スルヲ誓フ所ハ猶本人ノ
家ニ到リ返ク其家産及高業ノ景状ヲ檢査ノ上
右願書ニ奥印シテ區長ノ許ニ回達スヘシ但シ
其際願人ヨリ二十五錢ノ手数料ヲ受收スルヲ
得

第二章

任ニ相違アルカ或ハ戸
願書ヲ書改メテ之ニ
之ヲ區長ノ許ニ送
判處ニ申出テ其決
至

ハハシ但シ免許状ハ其終所有
換ヲ請フマシ

第四章

各營業入所有ノ免許状ヲ燒失
片ハ速ニ第六号書式ニ倣ヒ詳
テ戸長ノ許ニ達シ區長ノ手ヲ
ヲ願ヒ受クヘシ但シ其際手數
錢ヲ區長及ヒ戸長ノ手ニ納ム

第二條 免許税金手数料及

戸長心得

第一章

府縣各區ノ戸長ハ各願入ヨリ准
書本式ニ適合スルヤ否ヲ点檢
營業規則ノ趣意ヲ叮嚀ニ説キ明
意ヲ會得シテ遵守スルヲ誓フ
家ニ到リ又ク其家産及商業ノ目
右願書ニ奥印シテ區長ノ許ニ
其際願入ヨリ二十五錢ノ手數料
得

第二章

若シ願書ニ載セル所ノ事項ニ相違アルカ或ハ戸
長之ヲ下相當ト思フトキハ願書ヲ書改メレタリ
若シ不相當ノ事項ヲ書改メ書改メテ否ニ其係
免許状ヲ受ルルカ否ハ之ヲ區長ノ許ニ達シ
又其存否應テ區長ノ裁量ニ由ルヲ其決
ラ仰ヒ

府縣各區ノ區長ハ右願書ヲ戶長ヨリ受收シ猶
再檢シテ直チニ之ヲ其府縣廳又ハ支廳ニ進達
シ各營業ニ從ヒ免許狀ヲ受次キ之ニ願入ノ住
處姓名及ヒ免許ノ月日并免許税金ノ納高ヲ加
書シテ之ヲ本人ニ與フヘシ但シ其際願入ヨリ
二十五錢ノ手数料ヲ受收スルヲ得ヘシ

第三章

凡ソ各府縣廳或ハ支廳ニ於テハ兼テ各營業ニ
從ヒ一定ノ免許狀ヲ第七八九号書式ニ依テ作
制シ區長ヨリ各營業願書ヲ進達スルニ及テ其

長官タル者速ニ檢査ヲ遂ケテ免許狀ヲ區長ニ
附與スヘシ

第四章

各府縣廳又ハ支廳ニ於テハ願書式報表式其他
一切ノ書式ヲ板刻シ常ニ各管轄區區戶長ノ手
ニ頒配シ置クヘシ

第五章

各府縣廳ニ於テハ區長ヨリ進納スル處ノ營業
免許税金并手数料等悉皆之ヲ一纏メニシテ每
六ヶ月幾日迄ニ大藏出納寮ニ納ムヘシ

第六章

各府縣廳一於テハ兼テ第十号書式ニ倣ヒ税金
毎月分收納帳ヲ作り其中ヨリ第十一号書式ニ
倣テ甲乙丙丁ノ月々進達書ヲ作制シ其中ニ前
月分ノ收納金ヲ記シ毎月何日迄ニ抄寫シ其翌
日郵便ヲ以テ甲ハ之ヲ租税寮ニ乙ハ之ヲ出納
寮ニ丙ハ之ヲ検査寮ニ丁ハ之ヲ大藏本省ニ進
達スヘシ又第十四号書式ニ倣ヒ每六ヶ月分ヲ
一纏メニ記シ前記ト同ク甲乙丙丁ノ順序ヲ以
テ之ヲ作制シ本省及ヒ三寮ニ進達スヘシ又每

歳二月十日迄ニ第十五六七号書式ノ如ク前年中
ノ營業稅及ヒ手数料納高ヲ詳記シ本省及ヒ三
寮ニ進達スヘシ但シ每六ヶ月進納ノ分ハ右ノ
十号簿冊中ニ記シ置クヘシ

第七章

各區ノ區長ハ兼テ第十八号書式ニ倣テ營業免
許納稅帳ヲ作制シ營業願入姓氏ノ頭字ヲ以テ
之ヲイロハノ順序ニ區分シ各本人ノ住處業名
及ヒ免許本日税金收納高等ヲ詳ニ記ルシ免許
毎ニ其中ニ記載シ右簿冊中ヨリ第十九廿号書

式ニ倣テ前月分ノ收納高ヲ毎月何日迄ニ抄寫
シ之ヲ甲乙ノ二枚ニ別テ其翌日郵便ヲ以テ甲
ハ之ヲ租稅寮ニ乙ハ之ヲ其府縣廳ニ送達スヘ
シ又第廿二号格式ニ倣テ前三ヶ月分稅金及ヒ
諸手數料收納高ヲ每四ヶ月何日迄ニ抄寫シ之
ヲ甲乙ノ二枚ニ別テ其翌日郵便ヲ以テ甲ハ稅
金手數料ト共ニ之ヲ其府縣廳ニ納メ乙ハ之ヲ
又各區ノ區長ハ戶長ヨリ每三ヶ月分ソ手數料
ヲ取纏メ進達ニ及フヤハ第廿三号書式ニ倣テ受
領書ニ枚又作シ之ヲ典^ニ入^ルニ^シテ^ハ庶^テ免^ル許^ス

受次帳ヲ作りテ第七章ノ如クイロハノ順序ヲ
以テ姓名ヲ區分シ其願書ヲ受次タル^レ及ヒ受
收ノ手數料高ヲ記シ置クヘシ又毎月二日迄ニ
第^{其寫}廿九号格式ニ倣テ作制シ翌日郵便ヲ以テ其府
縣廳ニ進達スヘシ又其受收シタル手數料ハ每
三ヶ月初二日限り之ヲ一纏メニシテ區長ノ許
ニ致シ區長ヨリ受領合ヲ相承ケ翌日郵便ヲ以
テ本書ヲ其府縣廳又ハ支廳ニ送致シ寫^ス以テ
自身之ヲ所持スヘシ

第九章

式ニ倣テ前月分ノ收納高ヲ毎月何日迄ニ抄寫
シ之ヲ甲乙ノ二枚ニ別テ其翌日郵便ヲ以テ甲
ハ之ヲ租税寮ニ乙ハ之ヲ其府縣廳ニ送達スヘ
シ又第九号格式ニ倣テ前三ヶ月分税金及ヒ
諸手数料收納高ヲ每四ヶ月何日迄ニ抄寫シ之
ヲ甲乙ノ二枚ニ別テ其翌日郵便ヲ以テ甲ハ税
金手数料ト共ニ之ヲ其府縣廳ニ納メ乙ハ之ヲ
租税寮ニ送達スヘシ

第八章

各區ノ戸長ハ兼テ第廿四号書式ニ倣ヒ免許願

受次帳ヲ作りテ第七章ノ如クアロハノ順序ヲ
以テ姓名ヲ區分シ其願書ヲ受次タルヲ及ヒ受
收ノ手数料高ヲ記シ置クヘシ又毎月二日迄ニ
第九号格式ニ倣テ作制シ翌日郵便ヲ以テ其府
縣廳ニ進達スヘシ又其受收シタル手数料ハ每
三ヶ月初二日限り之ヲ一纏メニシテ區長ノ許
ニ致シ區長ヨリ受領合ヲ相承ケ翌日郵便ヲ以
テ本書ヲ其府縣廳又ハ支廳ニ送致シ寫ルヲ以テ
自身之ヲ所持スヘシ

第九章

各戸長ハ營業人所持ノ免許狀ヲ燒失又ハ紛失ニ及テ第六号各式ニ倣テ其事由ヲ届ケ出ルルハ事實検査ノ上直チニ區長ノ許ニ達シ區長之ヲ其府縣廳又ハ支廳ニ聞達シテ更ニ免許狀ヲ受次キ本人ニ與フヘシ但シ其際願人ヨリ二十五錢ノ手数料ヲ區戸長共ニ受收スルヲ得ヘシ

第十章

又各營業人ヨリ他小區へ移轉スルヲ届ケ出ルルハ戸長其届各ニ奥書調印シテ移轉先ノ戸長ヲ宛書シ之ヲ本人ニ與ヘ追テ區長ノ許ニ達シ

○又移轉先ノ戸長ヨリモ亦該區長ノ許ニ其事由ヲ達スヘシ

區内ノ移轉ナレハ戸長迄聞

第十一章

各區ノ區長ハ租稅頭及ヒ其管轄府縣長官ノ委任狀ヲ有スル官吏ニハ時日ニ拘セズ其有スル所ノ簿冊ヲ綴覽セシムヘシ

第十二章

各區ノ區戸長ハ今般諸營業新規則ヲ設ケ自後追々發行ニ於テハ右事務ニ関涉ノ為ノ各一名ノ各記役ヲ申付ルヲ得ヘシ

各戸長ハ營業人所持ノ免許狀ヲ燒失又ハ紛失
ニ及テ第六号各式ニ倣テ其事由ヲ届ケ出ルル
ハ事實検査ノ上直チニ區長ノ許ニ達シ區長之
ヲ其府縣廳又ハ支廳ニ聞達シテ更ニ免許狀ヲ
受次キ本人ニ與フヘシ但シ其際願人ヨリ二十
五錢ノ手数料ヲ區戸長共ニ受收スルヲ得ヘシ

第十章

又各營業人ヨリ他小區へ移轉スルヲ届ケ出ル
ルハ戸長其届各ニ奥書調印シテ移轉先ノ戸長
ヲ宛書シ之ヲ本人ニ與ヘ追テ區長ノ許ニ達シ

置クヘシ但シ同小區内ノ移轉ナレハ戸長迄聞
届ケヲクヘシ

第十一章

各區ノ區長ハ租税頭及ヒ其管轄府縣長官ノ委
任狀ヲ有スル官吏ニハ時日ニ拘セズ其有スル
所ノ簿冊ヲ綴覽セシムヘシ

第十二章

各區ノ區戸長ハ今般諸營業新規則ヲ設ケ自後
追々發行ニ於テハ右事務ニ関涉ノ為ノ各一名ノ
書記役ヲ申付ルヲ得ヘシ

第十三章

凡ソ區長ハ毎月一回ト定メ戸長ハ毎月三四或ハ數回ヲ期シ各其管轄區ヲ巡回シテ營業稅法ノ實ニ行ハルハヤ否ヲ視察スヘシ

第十四章

各戸長ハ人民間ニ在テ無免許ニシテ諸商業ヲ営ム者アルヲ覺知スルキハ即時ニ其由ヲ區長ノ許ニ聞達スヘシ而シテ區長其報ヲ得ハ直チニ自身又ハ代人ヲ以テ戸長ト共ニ犯法者ノ家ニ届リ糾問ノ後戸長ノ報告ニ違ヒナキキハ先ツ

其營業ヲ禁シ番人ヲ附シテ本人ヲ其家ニ守ラシメ直チニ管轄府縣廳或ハ其地方裁判所ニ上聞シテ之カ處分ヲ乞フヘシ又營業規則ヲ犯ス者アレハ是又府縣廳或ハ地方裁判所ニ聞達シテ其處置ヲ乞フヘシ

第十五章

凡ソ規則ヲ犯ス者アルヲ知テ之ヲ區戸長ノ許ニ報告スル者ハ區戸長直チニ其事實ヲ糾シテ其報告ニ違ヒナキキハ犯人ヨリ徵收スル處ノ罰金ノ半額ヲ其者ニ附典スヘシ

裁判官ノ判決ヲ經テ後

第十六章

區戸長罰則

一 各營業人ヨリ進達スル處ノ願届書等ヲ故ラニ
遅延ニ及^ホル者ハ何圓以下何圓以上ノ罰金ヲ
申命スヘシ

一 税金手数料等ヲ私スルカ或ハ賄賂ヲ受ル者其
事發覺スルニ於テハ直^キニ各其職ヲ免シ何年
以下何年以上ノ懲役ヲ申命スヘシ
一 又推成ヲ以テ不理ノ稅賦課シ或ハ隈リニ稅額
ヲ増減スル者ハ事實檢査ノ上連ニ其職ヲ免シ

一 何年以下何年以上ノ懲役ヲ申命スヘシ

一 此他區戸長タル者本職不係ノ專断等ニ及^フキ
ハ實檢ノ上相當ノ罰ヲ加フヘシ

第三條 旅人宿營業免許規則

第一章

凡ソ自家不用ノ坐敷部屋等ヲ數多ニ設ケ備ヘ
テ旅客ヲ宿泊セシメ爲ニ相當ノ代價ヲ受テ本
業トスル者ハ総テ之ヲ旅人宿ト稱スヘシ但シ
木賃宿ト稱ヘテ專ラ賤民貧客等ヲ宿泊セシム
ル者ハ此限ニ入ラス

第二章

凡^テ旅人宿營業免許ヲ願ヒ出ル者ハ各其所有
スル處ノ坐敷間數及ヒ一昼夜ニ旅客何人ヲ宿

給セシメ得ル等ノ事由ヲ詳細ニ書キ記シ第三
號書式ニ倣テ願書ヲ作制シ各該區戸長ノ許ニ
進達シ區長
進達ノ際戸長ヨリ示スル規則ヲ通覽ニ島廳ヨリノ示令ヲ
〇且願各進達ノ際戸長ヨリ示スル規則ヲ通覽ニ島廳ヨリノ示令ヲ
篤ク其趣意ヲ守ルルヲ誓證スヘシ
第三章

凡ソ免許ヲ受テ本業ヲ營ム者ハ其六號雛形ニ倣
ヒ門口又ハ店先等ノ目ノ觸ル々場所へ看板ヲ
掛ケ置クヘシ

第四章

旅人宿營業ノ者ハ各左ノ等級割合ニ從テ免許

税ヲ一時ニ區長ノ許ニ納ムヘシ但シ左ノ等
級ヲ以テ本業ヲ營ムト雖モ其後家業盛大ニ及
フ者ハ其度毎ニ出願シテ其等ニ從ヒ更ニ免許
状ヲ改メ受クヘシ

旅人宿營業免許納税割合

上等 一ヶ年税金二十圓

一昼夜ニ旅客百人以上二百人迄宿給シ得
ル者

中等 同上十五圓

同五十人以上百人迄宿給シ得ル者

給セシメ得ル等ノ事由ヲ詳細ニ書キ記シ第三
號書式ニ倣テ願書ヲ作制シ各該區戸長ノ許ニ
進達シ區長ノ手ヲ經テ其府縣廳ヨリノ示令ヲ
待ツヘシ

第三章

凡ソ免許ヲ受テ本業ヲ營ム者ハ其號雖形ニ倣
ヒ門口又ハ店先等入目ノ觸ル々場所へ看板ヲ
掛ケ置クヘシ

第四章

旅人宿營業ノ者ハ各左ノ等級割合ニ從テ免許

稅ヲ一時ニ區長ノ許ニ納ムヘシ但シ左ノ等
級ヲ以テ本業ヲ營ムト雖モ其後家業盛大ニ及
ブ者ハ其度毎ニ出願シテ其等ニ從ヒ更ニ免許
狀ヲ改メ受クヘシ

旅人宿營業免許納稅割合

上等 一ヶ年稅金二十圓

一昼夜ニ旅客百人以上二百人迄宿給シ得
ル者

中等 同上十五圓

同五十人以上百人迄宿給シ得ル者

下等

同上十圓

同十人以上五十人迄宿給シ得ル者

凡ソ營業間ハ一ケ年ヲ以テ之ヲ一期限ト定ム
故ニ翌年續テ營業セント欲スル者ハ更ニ免
許ヲ願ヒ出ツヘシ且ツ右税金ハ一ケ年間一月
ヨリ十二月ヲ限り之ヲ算當シ一月以後開業ノ
者ハ其月ヨリ十二月迄ノ割合ヲ以テ一時ニ上
納スヘシ但十五日前後ニ願ヒ出ルモ皆之ヲ一
ケ月ト看做シ算當スヘシ又税金一時ニ上納爲
シ難キ者ハ先ツ六ケ月分ヲ納税セシメ殘ル税

金ハ其第十二月限り年一割ノ利息ヲ合附シテ
之ヲ上納スヘシ但十五日前後^ハ總テ一ケ月
ト看做シ其割ヲ以テ利息ヲ納ムヘシ

第五章

凡ソ旅人宿營業ノ者娼妓藝妓ノ類ヲ宿泊セシ
メ或ハ小女ヲノ旅客ニ饗遇セシメ又ハ絃歌高
聲等ヲ發シテ家内噪擾ノ所行ヲ爲サシムル等
ノ事ハ一切之ヲ嚴禁スヘシ但シ家主又ハ僕婢
等制スト雖モ旅客之ヲ聽容レザル片ハ直ニ近
隣ノ巡查ニ達シ其處分ヲ請フヘシ

第六章

旅人宿營業ノ者ハ第一店先ニ帳場ヲ設ケ此ニ
人名帳ヲ備ヘ置キ旅客ノ投宿毎ニ自ラ姓名住
所ヲ記載セシムヘシ且ツ旅客所持ノ金銭及ヒ
至重ノ物品等ハ代價及ヒ員數ヲ改メ正カニ受
ケ收メ毎品合札ヲ附シテ能ク注意シ亡失焼失
等ノ患ナカラシムヘシ萬一紛失焼失等ニ及フ
ハ家主タル者之ヲ償得スヘシ但シ客ヨリ依
託ナキ物ハ勿論之ヲ償フニ及ハス

第七章

前章ノ旨趣ヲ毎客ニ熟知セシメンカ爲メ解リ
易ク詳ニ書キ記ルシ各其家ノ規則ト同ク一間
毎ニ貼付置クヘシ又品ニヨリ夜中守番ヲ附ル
モノハ其品所託ノ旅客ヨリ相當ノ守番料ヲ受
收スヘシ

第八章

右ノ數條一事タリ凡之ヲ違反スル者或ハ無免
許ニシテ本業ヲ營ム者ハ各其違反ノ箇條ニ從
テ左ノ懲罰ヲ申命スヘシ

第九章

罰則

一 凡ソ無免許ニシテ旅人宿ヲ營業スル者ハ何
圓以下何圓以上ノ罰金ヲ當ルカ或ハ何年以
下何ヶ月以上ノ懲役ヲ申付ヘシ
一 第四章ノ禁則ヲ犯ス者ハ何圓以下何圓以上
ノ罰金ヲ當ルカ或ハ何年以下何年以上ノ懲
役ヲ申付クヘシ
一 凡ソ税金ノ減少ヲ謀リ偽テ其家不當ノ本業
ヲ營ム者其事後ニ發覺スルニ於テハ戸長檢
査ノ上本税高一倍ノ罰金ヲ加フベシ

一 免許規則ヲ一條タリニ違反スル者ハ各其免
許税高一倍ノ罰金ヲ命スヘシ又違反二回ニ
及フ者ハ本人ノ免許狀ヲ取上ケ相當ノ罰ヲ
加ヘ再ヒ本業ヲ營ムヲ許サス

第四條 割烹店營業免許并規則

第一章

凡ソ宿泊セシメスニテ來客ノ需ムニ應ニ相當
ノ代價ヲ受テ為メニ飲食ヲ供給シ之ヲ本業ト
スル者ハ區々ノ名称ヲ論セス總テ割烹店ト稱
スヘシ但シ專ラ賤民貧客ノ為ニ飲食ヲ給スル
路店小舗ノ如キハ此限ニ入ラス

第二章

割烹店營業免許ヲ願ヒ出ル者ハ何種類ノ飲食
店ヲ開業カルトヲ第二号 各式ニ倣ヒテ願

書ヲ作制シ各該區戸長ノ許ニ進達シ區長ノ順
次ヲ經テ其府縣廳ヨリノ指令ヲ俟ツヘシ且願
存進達ノ際戸長ヨリ示スル規則ヲ通覽シ厚
ク其趣意ヲ守ルルヲ警證スヘシ

第三章

凡ソ免許ヲ受テ本業ヲ営ム者ハ第七号雖形ニ
做セ門口或ハ店先等人目ノ觸ル、場所一看板
ヲ掛ケ置クヘシ

第四章

割烹店營業ノ者ハ各店ノ等級割合ニ從テ税金

ヲ各其管轄區長ノ許ニ納ムヘシ但シ店ノ等級
ヲ以テ本業ヲ営ムト雖モ其後家業盛大ニ及
者ハ猶其度毎ニ出願シテ其等ニ從ヒ更ニ免許
狀ヲ改メ受ヘシ

割烹店營業免許納稅割合

上等 一ヶ年税金二十圓

會席料理、貸座敷、一種ノ割烹店ニテ廣大ノ
人同連ノ來客ニ時日ヲ限テ座敷ヲ貸シ切
亦從テ飲食ヲ供給スル者ヲ云フ

西洋料理但シ並料理家ト雖モ巨大ノ家屋

ヲ構メ得ル處ノ利益稍前ニ同キ者ハ亦之

ヲ上等割烹店ノ部ニ加入スヘシ
中等 一ヶ年税金十五圓

並料理屋但シ會席料理ノ名称ニシテ家屋稍
大ニ從テ利益モ寡キ者又ハ鰻屋鰯屋ニ
シテ其家屋ト利益ト供ニ並料理屋ニ均キ者
ハ總テ之ヲ中等割烹店ノ部ニ加入スヘシ
下等 一ヶ年税金十圓

鰻屋、鰯屋、鳥獸肉店、蕎麥店、茶漬屋、但シ料理
屋ト稱ヘテ小店ニ屬スル者ハ是又下等割
烹店ノ部ニ加入スヘシ

又待合茶屋ト稱シテ自家ニ割烹ヲ為サズ一時
來客ニ坐敷ヲ貸シ為ニ相當ノ席料ヲ受テ客若
シ飲食ヲ欲セハ他家ヨリ求メテ之ヲ供給シ以
テ本業トスル者ノ如キモ亦之ヲ一般割烹店ト
看做シ中等ノ部ニ加入ス

又割烹店ニシテ小船等ヲ備ヘ置キテ遊客ニ供ス
ル者ハ本業ノ外別ニ遊船宿營業稅ヲ納ムヘシ
右ハ一ヶ年ノ算當ニシテ若シ第一月以後開業ノ
者ハ其月ヨリ十二月ヲ限リ月割ヲ以テ算當ス
ヘシ但シ十五日前後ニ願ヒ出ルモ之ヲ一ヶ月

下者徴スヘシ又税金一時ニ上納為シ難キ者ハ
先ツ六ヶ月分ヲ納税^スシノ残金ハ其十二月限
年一割ノ利息ヲ合附シテ之ヲ上納スヘシ但シ
十五日前後^共之ヲ一ヶ月ト看徴シ其割ヲ以テ
利息ヲ納ムヘシ

第五章

凡ソ割烹店ヲ營業スル者ハ娼妓藝妓^ノ類ハ勿
論供客ト雖モ宿泊セシムルヲ禁ス又家内ニ於
テ喧嘩噪擾ノ所業ヲ為シ又ハ小女ヲ置テ客ニ
供シ滯リノ所業ヲ為ス等ノ事ハ一切嚴禁タル

第六章

右ニ掲載スル処ノ一條タリモ之ヲ違犯スル者
又ハ無免許ニテ割烹店ヲ營業スル者^ハ各違犯
ノ條ニ從ヒ尤ノ懲罰ヲ命スヘシ

第七章

罰則

一凡ソ無免許ニシテ割烹店營業ヲ為ス者ハ何
國以下何圍以上ノ罰金ヲ當ルカ何年以下何
ヶ月以上ノ懲役ヲ命スヘシ

第四章ノ禁則ヲ犯ス者ハ何圓以下何圓以上
罰金ヲ當ルカ又ハ何年以下何年以上ノ懲
役ヲ命スヘシ

一凡ソ税金ノ減少ヲ謀リ偽テ其家不當ノ本業
ヲ営ム者其事後ニ發覺スルニ於テハ戶長檢
査ノ上本税高一倍ノ罰金ヲ加フヘシ

一右免許規則ノ一條タリモ之ヲ違犯スル者ハ
各其免許税高一倍ノ罰金ヲ命スヘシ又違犯
二回ニ及フ者ハ本人ノ免許狀ヲ取上テ相當
ノ罰ヲ加ヘテ再ヒ本業ヲ営ムヲ許サス

第五條 游船宿營業免許并規則

第一章

凡ソ屋形船、屋根船、猪牙船、釣船、網船等ノ游船ヲ
所有シ來客ノ需ニ應シ時日ヲ限テ之ヲ貸シ
相當ノ代價ヲ受テ之ヲ本業トスル者ハ總テ游
船宿ト稱スヘシ又或ハ土俗ニヨリ船ニ區々ノ
名稱ヲ附スルモ其實游船ニ屬スル者ハ此亦總
テ同業ト看做スヘシ但シ蒸氣船、親船、立大カ、押
送、高瀬、茶船、荷揚船、傳問、荷足等ノ實用船ヲ所有
スル者ハ追テ税則改正スル迄従前ノ規則ニ從

ノヘシ

第二章

游船宿營業ヲ願フ者ハ第三号各式ニ倣ヒテ願
 書ヲ作制シ各該區戸長ノ許ニ進達シテ區長ヨ
 リノ示令ヲ待ツヘシ又願各進達ノ際戸長ヨリ
 示ス処ノ規則書ヲ熟讀シ篤ク其旨趣ヲ遵守ス
 凡ソ免許ヲ受テ本業ヲ営ム者ハ第六号雜形ニ
 倣ヒ門口或ハ店先等ノ目ノ觸ル、場所へ看板
 ヲ掛ケ置クヘシ
 有スルニ非レハ本業ヲ免許スヘカラス

第三章

第四章

凡ソ免許游船宿營業ノ者ハ其所有スル処ノ游
 船一艘ニ付一ケ年左ノ割合ヲ以テ税金ヲ上納
 スヘシ

屋根形船	五圓
屋根船	三圓
猪牙船	二圓
釣船	同
網船	同
土俗ニ從ヒ船ニ區々ノ通稱アルモ右等ノ游	

大藏省

ノヘシ

第二章

游船宿營業ヲ願フ者ハ第三号各式ニ倣ヒテ願
書ヲ作制シ各該區戸長ノ許ニ進達シテ區長ヨ
リノ示令ヲ待ツヘシ又願各進達ノ際戸長ヨリ
示ス処ノ規則書ヲ熟読シ篤ク其旨趣ヲ遵守ス
ル事ヲ誓証スヘシ

第三章

凡ソ第一章ニ掲載スル処ノ游船二艘以上ヲ所
有スルニ非レハ本業ヲ免許スヘカラス

第四章

凡ソ免許游船宿營業ノ者ハ其所有スル処ノ游
船一艘ニ付一ヶ年左ノ割合ヲ以テ税金ヲ上納
スヘシ

屋形船

五圓

屋根船

三圓

猪牙船

二圓

釣船

同

網船

同

土俗ニ從ヒ船ニ區々ノ通稱アルモ右等ノ游

歳時類

船ニ均キモノハ又準シテ本税ヲ上納スヘシ
第五章

営業間ハ一ケ年ヲ以テ一期限ト定メ若シ翌年
続テ本業ヲ営マント欲スル者ハ前年十二月十
五日限共事由ヲ戸長ノ許ニ聞達スヘシ又第一
月以後新ニ開業スル者ハ十二月迄ノ月割ヲ以
テ税金ヲ上納スヘシ但シ十五日前後ニ願出ル
モ皆之ヲ一ケ月ト看做スヘシ

第六章

凡ソ本業ヲ営ム者ハ娼妓藝妓ノ類ハ勿論供客

ト雖モ其家ニ宿泊セシメ或ハ船中ニ寢席等
設ケテ客ニ供シ浴リノ所行ヲ為サシムル等ノ
事ハ一切禁止タルヘシ

第七章

又游船宿営業ニシテ客ノ需メニ應ジ飲食ヲ供給
スルカ如キハ假令其家ニテ割烹ヲ為サ、ルモ
本業ノ外別ニ中等割烹店営業免許ヲ受ケ從テ
其本税ヲ上納スヘシ

第八章

諸游船ハ一艘毎ニ舳ノ前兩側ヲ黒キ西洋漆ヲ

以テ塗リ其上ヲ白キ西洋漆ニテ第 号番式ニ
傲 所有主ノ住所姓名及免許ノ番号ヲ記シ置
クヘシ但シ從來營業ノ者所有船モ本文ノ如ク
同一タルヘシ

第九章

開業ノ後新ニ諸游船ヲ製造スル者ハ其度毎ニ
該區戸長ニ達シテ免許状ニ加入ヲ受テ其度毎
ニ船一艘ニ付手数料トシテ二十五錢ヲ戸長ニ
納ムヘシ但シ戸長ハ其時本人ノ家ニ到リ第 章
ニ記ス如ク番号等ヲ其船ニ証記セシメ自身

所持ノ手帳ヘ記シ置キ追テ古事由ヲ區長ノ許
ニ達シ區長又其管轄府縣廳或ハ支廳ヘ進達ス
ルニ
又朽木或ハ事故ヲツテ廢船ニ及フキ亦戸長
ノ許ニ達シテ免許状ニ除消ヲ受クヘシ但シ其
後ノ製造船ニハ必ス前廢船ノ番号ヲ用ヒ記ス
ヘシ

第十一章

又游船附屬ノ舟子ノ衣服ニハ悉ク其家主ノ姓
名及ヒ乗込船ノ番号ヲ眼ニ付キ易キ處ニ縫ヒ

附ルカ又ハ深出シテ常ニ之ヲ善用ナサレムヘ
レ

第十二章

夜間ハ船ノ前面ニ硝子ヲ以テ堅牢ニ作製シタ
ル四角ノ燈罩ヲ立テ行舟滞留ノ間トモ必ズ燭
ヲ點シ置キ且水路ニ艘ノ航行違フキハ互ニ左
方ニ除ケ彼此衝突ノ害ナカラシム但シ所有主
人常置場ニ繫ク間ハ燭ヲ点スルニ及ハス

第十三章

凡テ船子ハ平常其船主ノ常置場ヲ除クノ外其

乗込船ノ傍側ヲ離去スヘカラス

第十四章

游船宿營業ノ者其所有スル処ノ諸游船ヲ他人
ニ傳與スルカ或ハ賣却スルキハ本ヨリ十日
ノ内ニ其事由ヲ戸長ノ許ニ達シ且ツ其諸游船
ニハ旧有呈ノ記号ヲ消滅シテ更ニ新有主ノ姓
名ヲ第九章ニ倣ヒテ記証スヘシ又新ニ製造ス
ル者ハ其度毎ニ戸長ノ許ニ達スヘシ但シ戸長
ハ其度毎ニ諸游船一艘ニ付本人ヨリ二十五錢
ノ手数料ヲ受收スルヲ得ヘシ

第十四章

罰則

一凡ソ無免許ニシテ游船宿營業ヲ為ス者ハ何
圓以下何圓以上ノ罰金ヲ當ルカ何年以下何
ヶ月以上ノ懲役ヲ命スヘシ

一第四章ノ禁則ヲ犯ス者ハ何圓以下何圓以上
ノ罰金ヲ當ルカ又ハ何年以下何年以上ノ懲
役ヲ命スヘシ

一凡ソ稅額ノ減少ヲ謀リ偽テ所有船ノ數ヲ減
スルカ又ハ船名等ヲ偽リ届ル者其事後ニ發

覺スルニ於テハ戶長檢査ノ上其船稅一倍ノ
罰金ヲ加フヘシ

一右免許規則ノ一條タリモ之ヲ違反スル者ハ
各其免許稅高一倍ノ罰金ヲ命スヘシ又違反
二回ニ及フ者ハ本人ノ免許狀ヲ取上ケ相當
ノ罰ヲ加ヘテ再ヒ本業ヲ営ムヲ許サス

Blank manuscript page with vertical blue lines and a blue border. Faint, illegible markings are visible within the lines.

Blank manuscript page with vertical blue lines and a blue border. Faint, illegible markings are visible within the lines.

大
癸
省

九
癸
廿